

2020 年度 小委員会活動成果報告

(2021 年 1 月 26 日作成)

小委員会名	ヒューマンファクターによる環境制御法 小委員会		主 査 名：近本 智行 就任年月：2018 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (建築設備運営委員会)		委員長名：持田 灯 主 査 名：長井 達夫
設 置 期 間	2018 年 4 月 ～ 2022 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	ヒューマンファクターによる効果、IT などと組み合わせた実用的な制御法など、より実践的に利用価値を高めた環境構築技術を整備していく ・初年度：事例収集、制御装置などの情報収集 ・2年度：効果検証を検討、環境構築についての設計・制御手法の素案を作成 ・3年度：事例・制御装置などの情報収集、環境構築の設計・制御ガイドを検討 ・4年度：環境構築の設計・制御ガイドを作成、シンポジウムなどで成果発表		
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：無 主査：近本智行 (立命館大学) 幹事：長續仁志 (大林組) 委員：秋元孝之 (芝浦工業大学)、鶴飼真成 (早稲田大学)、大黒雅之 (大成建設)、大宮由紀夫 (竹中工務店)、小林弘造 (日建設計)、佐々木真人 (日本設計)、田辺新一 (早稲田大学)、中野淳太 (東海大学)、西野淳 (ダイキン工業)、野部達夫 (工学院大学)、三浦克弘 (鹿島建設)、村上宏次 (清水建設)、横山計三 (工学院大学)		
設置 WG (WG 名：目的)	2020 年度より「ヒューマンファクターによる設計・制御ガイドライン作成 WG」設置		
2020 年度予算	120,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：	

項 目	自己評価
委員会開催数	6 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	1. 「環境のヒューマンファクターデザイン 健康で快適な次世代省エネ建築へ」日本建築学会編、井上書院 (別途立ち上げたヒューマンファクター建築刊行小委員会にて出版)
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー 等) *能力開発支援事業委員会 承認企画	1. 建築会館ホールでの会場参加と Zoom Webinar によるオンラインの同時開催シンポジウム「環境のヒューマンファクターデザイン ～健康で快適な次世代省エネ建築へ」を開催 参加者数 112 名 (資料) シンポジウム資料
大会研究集会	1. (名称) 参加者数 各 (資料名)
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1. 事例収集、制御装置などの情報収集を実施した。 2. 「環境のヒューマンファクターデザイン 健康で快適な次世代省エネ建築へ」の出版 3. シンポジウムの開催
委員会活動の問題点・課題	

2020 年度 小委員会活動 自己評価

(中間年度評価・最終年度評価)

総合評価 (4段階評価)	A
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<p>当小委員会では、3年度として以下の活動を行った。</p> <ol style="list-style-type: none"> 小委員会の活動方針の確認、活動内容の検討 <ul style="list-style-type: none"> 小委員会としての活動方針を確認し、年度毎の委員会活動内容を検討した。 小委員会の成果として、4年度にかけてヒューマンファクターによる環境構築の設計・制御ガイドを作成し、シンポジウムなどで成果発表を行ってゆくことを確認した。 ヒューマンファクターに関する情報の収集 <ul style="list-style-type: none"> 委員からの提供された情報を議論した。 ヒューマンファクターに関する技術の評価法の検討 <ul style="list-style-type: none"> ヒューマンファクターの取り扱う範囲と、技術の評価法に関して議論した。 シンポジウムを開催（シンポジウムの概要は下記の通り） <p>ヒューマンファクターの概要 ヒューマンファクターの研究事例</p> <ul style="list-style-type: none"> —AI・IoT とヒューマンファクター —with コロナ時代の新たなヒューマンファクターの考え方 —自己効力感と総意形成のメカニズム <p>ヒューマンファクターの建築事例</p> <ul style="list-style-type: none"> —中規模オフィスへのヒューマンファクターの展開～KT ビルと鹿島技研研究棟 —地方中核都市に建つZEBオフィスでのヒューマンファクター～清水建設四国支店 —選択可能な環境と見える化を活用した「協創」促進型オフィス～ダイキン工業 TIC —ウエルネスオフィスの要素検討～大成建設技術センターZEB実証棟 —人の多様性に配慮した環境調整デバイスの概要と評価～竹中工務店技術研究所 —寒冷地オフィスビルにおける窓廻り環境への誘い～北ガスグループ本社屋 <p>海外でのヒューマンファクター研究事例</p> <ul style="list-style-type: none"> —UC Berkeley CBEにおける熱的快適性関連の研究動向 —積極的な快適性を取り入れる Alliesthesia の考え方 —熱的快適性の維持と生理反応・生産性の関係 <p>全体ディスカッション・質疑</p> <p>5. ヒューマンファクター建築刊行小委員会での出版（出版物目次は下記の通り）</p> <p>ヒューマンファクターに至る道 序 ヒューマンファクター建築事例</p> <ol style="list-style-type: none"> 1章 ヒューマンファクター建築のすすめ 2章 ヒューマンファクター建築と社会的背景 3章 古くて新しいヒューマンファクター 4章 人間の行動を考える 5章 ヒューマンファクターの要素技術 6章 ヒューマンファクター建築のこれから

- 総合評価は4段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から 80%の達成度
 - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から 70%の達成度
 - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。